

資金繰り表の作成

一般的に、資金繰り表とは見積もり計画書のことです。二〜三ヶ月後の将来の資金の状況を把握するための表です。

会社に入ってくる収入と、会社から出て行く支出を見積もり計上する表です。

損益計算書では利益が出ていても、売上代金の回収が遅れ、先行で仕入代金の支払いや、借入金返済が多かったら、

資金ショートの可能性が高まります。

万が一資金繰り表から資金不足が予測される場合、対応するため事前に手を打つことが出来ません。

日ごと又は月ごとに（三ヶ月程度）予算と実績に区分して作成する必要があります。

収入の部に、現金売上や、売掛金の回収、受取手形の期日入金、その他入金・・・が入ります。支出の部に、現金仕入、買掛金の支払、支払手形の期日支払未払金の支払い、人件費の支払い、その他の支払・・・が入ります。

なぜ必要か

財務収支は、借入、手形割引、設備投資、借入金返済・・・が入ります。

資金繰り表が必要な理由の一つに、「資金の有効利用」という目的があります。収入と支出を管理し、資金を有効に使うという目的があります。

人間が人間である証明はときめき性にあるという。ときめきを失ってしまったら、もう人間ではない。単なる物体ではない。

人間がどう生きたかは、何にどうときめいたか、何にどう燃えたかの度合いだという。

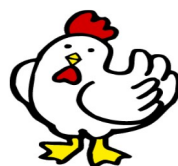
燃え上がるには熱狂が必要だ。自らのエネルギーが起爆する自然な状態、喜怒哀楽

が足りない借り入れすることだけが資金繰りというわけではありません。

つまり、資金繰り表という行為の中には、売掛金回収、買掛金や経費の支払のタイミングをずらすという経営判断が含まれます。

また、手形はいつ割り引くかによって割引料の金額は増減します。会社にとって有利な方向に割り引くのも資金繰り表のひとつだと言えます。

さらに、会社の成長を促進



するときに資金繰り表の重要性があります。たとえば設備投資や事業拡大をするときに、大量の資金が必要となります。このための借入金はいくら必要なのか？どのくらいの期間で返済するのか？という経営判断をするときに資金繰り表は重要な経営情報となります。

また自らで事業計画書の作成も重要です。計画を立てどれくらい計画が実行されたかの検討と、不確実性やリスクの把握が大切です。

哀楽が人間の一番自然なすがたである。自然（じねん）なのである。吐く息は熱いように、燃えない人間は生きている資格はない。

菅のときめき

新総理のときめきは我々にもつながると思いますが、トップの迷走だけは頂けない、悲劇です。旧政権と同

僚だ。勝手に外国と心中する覚悟を誰が決めたのです。最悪の選択肢？ピンチは自立の絶好のチャンスです。

じく大きな失望をまき散らした。財務官僚が主導する増税（消費税）と成長。今月中に発表する新経済戦略は期待が全く出来ない。更なる景気後退が必然だ。増税は大金持ちからが基本。20年を掛け三流国家にしたのは財務官僚だ。勝手に外国と心中する覚悟を誰が決めたのです。最悪の選択肢？ピンチは自立の絶好のチャンスです。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2010年6月7日(月) NO 117
 地域から明るい未来を作ろう